

農林水産省
令和２年度中南米日系農業者等との連携交流・ビジネス創出委託事業

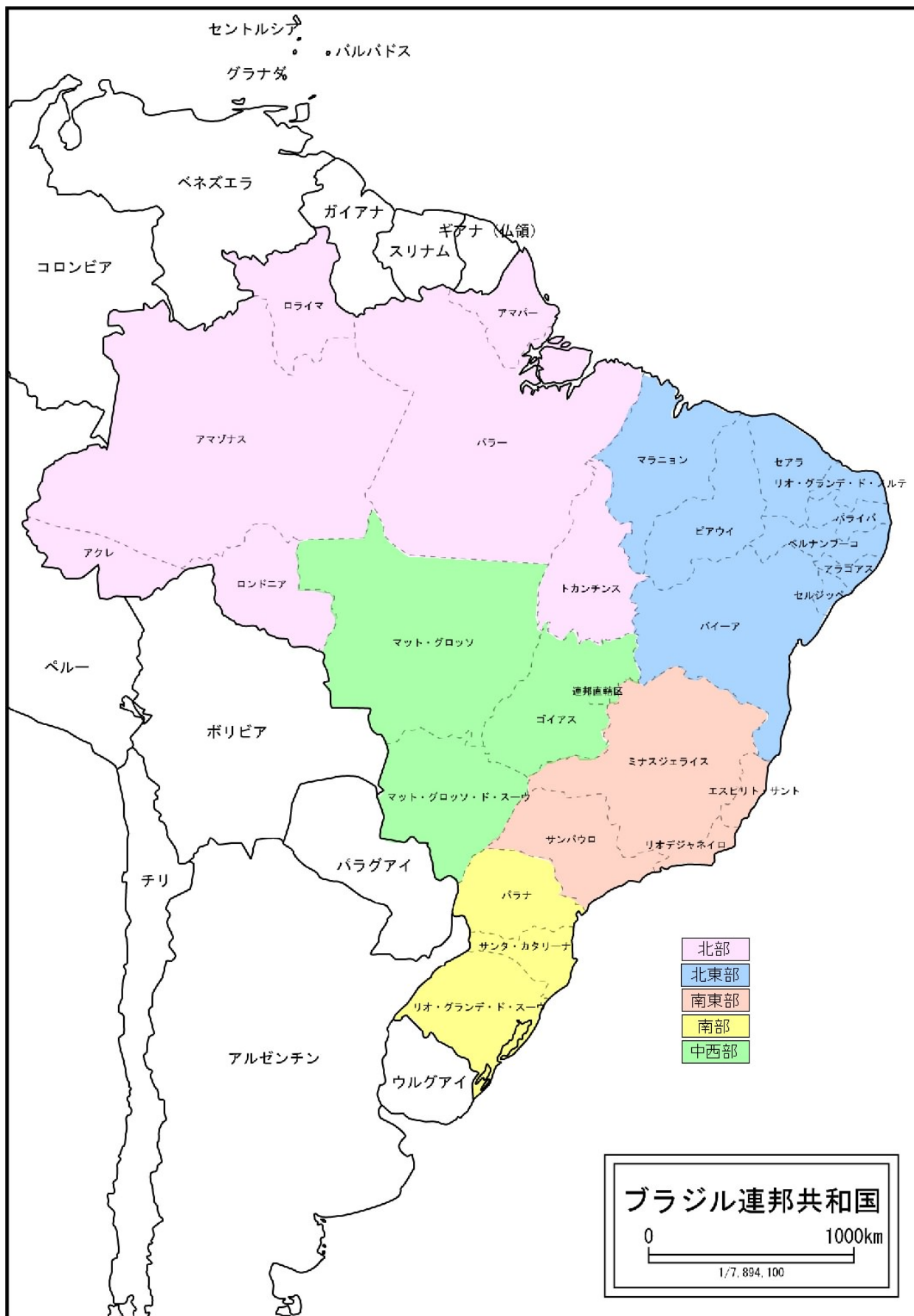
新型コロナウイルスのフードバリューチェーンへの影響調査
(ブラジル)
８月分報告書

令和２年８月
中央開発株式会社

目 次

1	ブラジルにおける新型コロナウイルスの農業関係分野への影響.....	1
1.1	主要農畜産物の生産状況と予想	1
1.1.1	穀物（2019/2020 年の生産予想と対前年比）	1
1.1.2	サトウキビ、砂糖、エタノール（2019/2020 年の生産予想と対前年比）	2
1.1.3	その他の作物（2019/2020 年の生産予想と対前年比）	3
1.1.4	畜産（牛、豚、鶏の 2019/2020 年のと殺頭数と対前年比）	3
1.2	主要農産物の輸出状況.....	4
1.3	主要農産物・食品の輸入状況.....	8
1.4	農産物価格	9
1.5	食品生産.....	10
1.6	マクロ経済	11
1.6.1	農業 GDP.....	11
1.6.2	農畜産物生産額（VBP – Valor Bruto de Produção）	13
1.7	フードサービスへの影響.....	14
1.8	小売への影響.....	15
1.9	消費者への影響	15
1.10	インターネット販売への影響.....	16
2	COVID-19 により顕在化したバリューチェーンの課題	19
2.1	トラック輸送の混乱	19
2.2	コーヒーの収穫	19
2.3	花卉・観葉植物生産への影響.....	20
2.4	野菜生産への影響.....	21
2.5	食肉パッカー（処理工場）の操業停止.....	22
2.6	中国による食肉パッカーの輸出認可の一時停止	23
3	政策、政府、民間企業の動き	25
3.1	入国制限.....	25
3.2	連邦政府による支援策.....	25
3.2.1	農業分野	25
3.3	全般	26
3.4	民間企業の動き	27
3.4.1	食品メーカーなどによるフードサービス支援策.....	27

「本事業は、農林水産省大臣官房国際部の委託により、中央開発が実施したものであり、本報告書の内容は農林水産省の見解等を示すものではありません。」



1 ブラジルにおける新型コロナウイルスの農業関係分野への影響

1.1 主要農畜産物の生産状況と予想

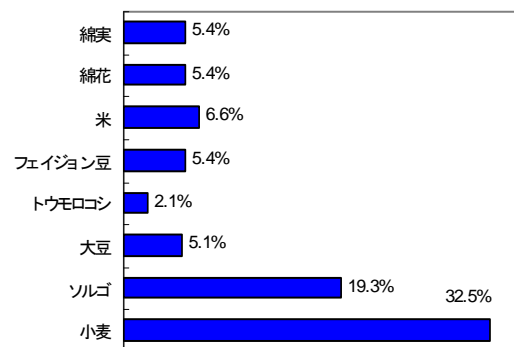
主要農作物の生産予想を、穀物及びサトウキビ関係（サトウキビ、砂糖、エタノール）についてはブラジル国家食糧供給公社（CONAB - Companhia Nacional de Abastecimento）の生産レポートである「Acompanhamento da Safra Brasileira - Grãos」、その他の作物及び畜産物についてはブラジル地理統計院（IBGE - Instituto Brasileiro de Geografia e Estatística）の農業生産調査である「Levantamento Sistemático da Produção Agrícola」のデータで見ていく。なお、サトウキビ関係を除きデータは毎月更新される。

1.1.1 穀物（2019/2020 年の生産予想と対前年比）

図表-1 2019/20 年の穀物生産予想と前値比（単位：千トン）

	2018/19 年	2019/20 年
綿実	4,166	4,392
綿花	2,779	2,930
米	10,484	11,180
フェイジョン豆	3,018	3,181
トウモロコシ	100,043	102,142
大豆	115,030	120,936
ソルゴ	2,177	2,597
小麦	5,155	6,832

出典：CONAB、8 月予想



2019/20 年における主要穀物の生産は、すべて増産の予想となっており、新型コロナウイルス（以下、COVID-19）の影響は見られない。

<大豆>

すでに 2019/20 年の収穫が終わっている大豆については、リオグランデドスール州及びサンタカタリーナ州では干ばつの影響により、対前年比で、それぞれ 43.4%、5.4%の減産が予想されているが、ブラジル全体でみた場合、生産量は前年比で 5.1%の増加が予想されている。

中国向けを中心に輸出が伸びたため、ブラジル植物油工業協会（Abiove - Associação Brasileira das Indústrias de Óleos Vegetais）は、本年 8 月の期末在庫は 91 万 9000 トンで、前年比 72.3%の減少と予想している¹。次期作（2020/21 年）は 9 月に植付が始まるが、ドル高を背景にすでに生産量の約半量が販売済みと報道されている（例年は生産量の約

¹ Abiove, Balanço de Oferta/Demanda, 2020/08/10

18%)²。

<トウモロコシ>

トウモロコシは、夏作がリオグランデドスール州では不作であり、また、現在、冬作の収穫が行われているが、南西部（ミナスジェライス州、サンパウロ州）、南部（パラナ州）では降雨が不足したことに起因する減産が予想されているものの、ブラジル全体では前年比 2.1%の微増が予想されている。

<コメ>

コメは、主要生産地であるリオグランデドスール州で 6.5%の増産が予想されている。国際市場での相場がよかったことから増産が予測され、一方、米価については、3月から高騰している。これは、COVID-19 の感染拡大による外出自粛によって自宅での調理機会が増えたことなどでの国内需要の増加が一因と推察される。

<小麦>

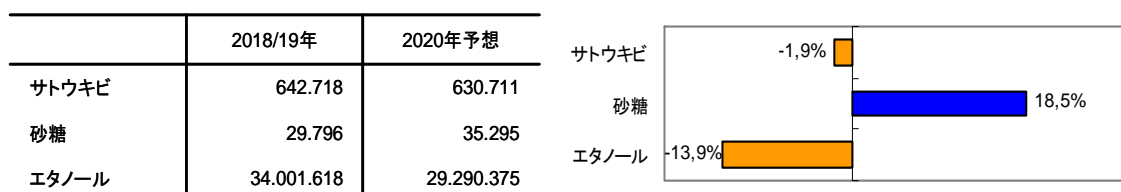
小麦は、主要生産地のリオグランデドスール州とパラナ州の植付が7月に終わっている。相場が上昇傾向にあるところから、今期 32.5%の増産が予想されている。2019/20 年の生産予想量（683 万ト）は 2015 年に記録した過去最大の生産量（672 万トン）を超える数量である。小麦はブラジルで数少ない輸入穀物となっている。

1.1.2 サトウキビ、砂糖、エタノール（2019/2020 年の生産予想と対前年比）

エタノールについては、対前年比で 13.9%の減少が予想されている。これは、COVID-19 の影響で車両の利用頻度が減少し、燃料用エタノールの消費量が減したことに起因するものと考えられる。

一方、砂糖の生産量については、対前年比で 18.5%の増加が予想されている。これは、ブラジルのエタノール工場は砂糖とエタノールの両方を生産できる体制になっているところが多いため、COVID-19 による燃料用エタノールの消費が落ち込んだことを受け、砂糖（主に輸出向け）の生産に切り替えたことに起因するものと考えられる。

図表-2 2019/20 年のサトウキビ関連作物の生産予想と前年比(単位：サトウキビ、砂糖＝千ト、エタノール＝千リットル)



出典：CONAB、5 月予想

² Notícias Agrícola, *Brasil deve começar plantio de soja 20/21 com mais da metade da safra vendida*, 2020/08/14

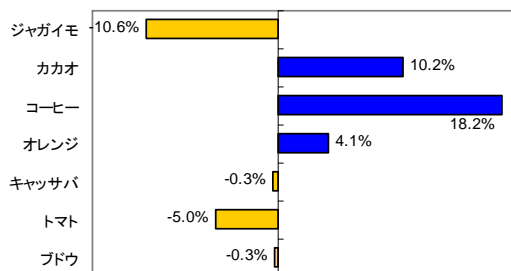
1.1.3 その他の作物（2019/2020 年の生産予想と対前年比）

コーヒーについて、今年は、対前年比で 18.2%の増産が見込まれている。カカオについても今年は増産（対前年比 10.2%増）が予想されている。ジャガイモ及びトマトは減産の予想となっているが、COVID-19 の影響によるかは不明である。

図表-3 2019/20 年の穀物生産予想（単位：千トン）

	2019 年	2020 年
ジャガイモ	3,854	3,445
カカオ	253	278
コーヒー	2,996	3,542
オレンジ	17,614	18,339
キャッサバ	18,990	18,929
トマト	4,076	3,871
ブドウ	1,446	1,442

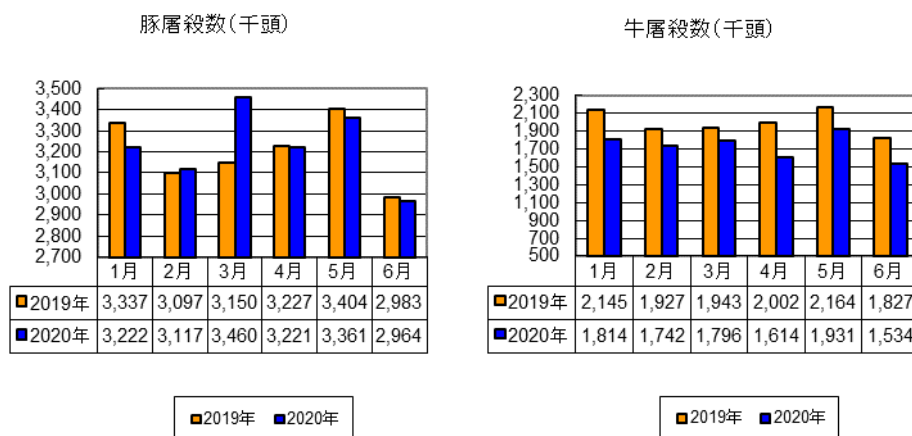
出典：IBGE、7 月予想



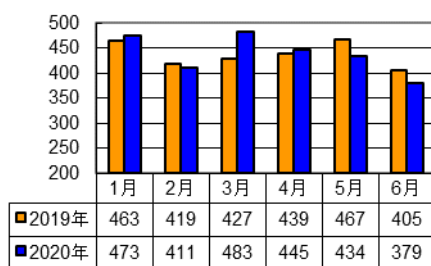
1.1.4 畜産（牛、豚、鶏の 2019/2020 年のと殺頭数と対前年比）

図表 4 は農牧食糧供給省（MAPA - Ministério da Agricultura, Pecuária e Abastecimento）が発表する毎月の豚、牛、鶏の屠殺数のデータである。ブラジルの食肉検査は、連邦レベル（SIF : Serviço de Inspeção Federal、連邦検査部）（輸出が可能）、市レベル（SIM - Serviço de Inspeção Municipal）、州レベル（SIE - Serviço de Inspeção Estadual）の 3 種類があるが、図表 4 は連邦レベル（SIF）のデータである（連邦、州、市ごとの屠殺数は IBGE が四半期ごとに発表しているが、現時点で、第 1 四半期のみの発表であり、次回の報告書に第 2 四半期も含めた詳細のデータを掲載予定）。

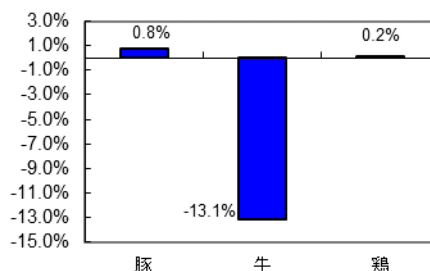
図表-4 屠殺頭数



鶏屠殺数(百万羽)



屠殺数累計前年比



2019年 2020年

1～6月累計前年比

	1～6月累計(豚・牛:千頭、鶏:百万羽)	
	2019年	2020年
豚	19,197	19,344
牛	12,009	10,431
鶏	2,621	2,626

出典：MAPA, Relatório de Atividades do Serviço de Inspeção Federal

1月から6月までの累計屠殺頭数の対前年比を見ると、豚及び鶏ではほぼ横ばいだが、牛は13%減となっている。牛の屠殺数が減少した理由は、昨年はメスの屠殺数が多かったため、子牛の出生頭数量が減少したことが原因と推察されており³、これらのデータからはCOVID-19の影響は読み取れない。

1.2 主要農産物の輸出状況

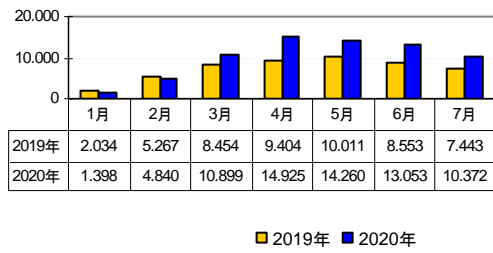
図表5から21に、主要農産物の2020年1月から7月までの累計輸出数量及び対前年比を示す⁴。

大豆及び食肉（牛肉、豚肉）では、中国向け輸出が大幅に伸びたことに起因して、輸出が増加している。これらのデータからCOVID-19の直接的影響は読み取れない。

³ Notícias Agrícolas, Com oferta restrita de animais, abate de bovinos recuou 9,2% no primeiro trimestre de 2020, 2020/05/14
<https://www.noticiasagricolas.com.br/videos/boi/259225-com-oferta-restrita-de-animais-abate-de-bovinos-recuou-92-no-primeiro-trimestre-de-2020.html#.X0bf19RCfmg>

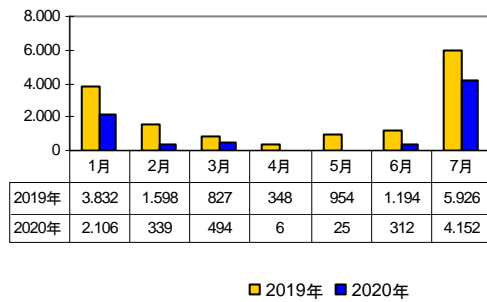
⁴ AGROSTAT - Estatísticas de Comércio Exterior do Agronegócio Brasileiro

図表-5 大豆（千トン）



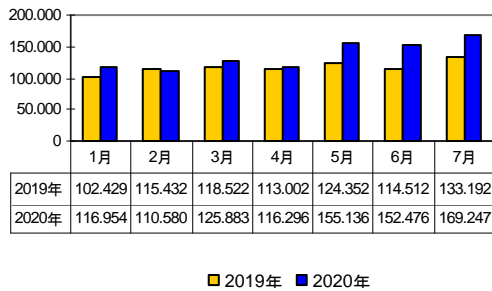
国	1月～7月累計		
	2019年	2020年	2019/20年
合計	51,166	69,748	36,3%
中国（＋香港）	38,299	50,522	31,9%
オランダ	1,397	3,013	115,7%
スペイン	1,852	2,496	34,8%
トルコ	1,139	1,926	69,1%
タイ	1,015	1,841	81,4%
日本	264	390	47,6%
その他	7,200	9,559	32,8%

図表-6 トウモロコシ（千トン）



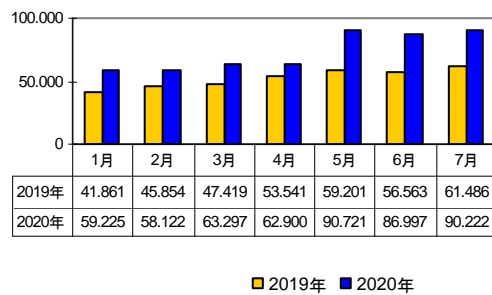
国	1月～7月累計		
	2019年	2020年	2019/20年
合計	14,678	7,433	-49,4%
台湾	989	1,112	12,5%
イラン	3,321	1,108	-66,6%
日本	1,621	939	-42,1%
エジプト	1,059	846	-20,1%
ベトナム	1,738	787	-54,7%
韓国	1,167	405	-65,3%
その他	4,784	2,237	-53,2%

図表-7 牛肉（トン）



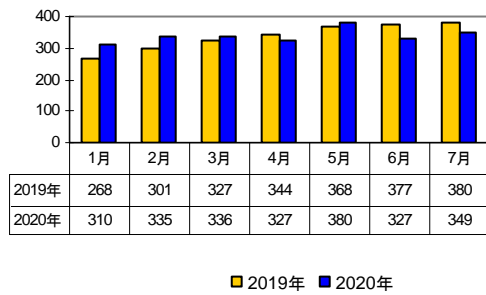
国	1月～7月累計		
	2019年	2020年	2019/20年
合計	821,441	946,571	15,2%
中国（＋香港）	311,014	575,453	85,0%
エジプト	93,043	70,282	-24,5%
チリ	63,684	39,557	-37,9%
ロシア	33,951	34,101	0,4%
サウジアラビア	23,555	27,003	14,6%
アラブ首長国連邦	56,738	21,078	-62,9%
その他	239,455	179,096	-25,2%

図表-8 豚肉（トン）



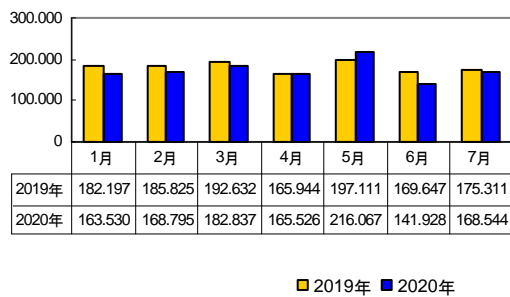
国	1月～7月累計		
	2019年	2020年	2019/20年
合計	365,925	511,483	39,8%
中国（＋香港）	178,872	350,299	95,8%
シンガポール	22,097	32,829	48,6%
ウルグアイ	24,089	21,758	-9,7%
チリ	26,820	20,941	-21,9%
ベトナム	9,042	15,651	73,1%
日本	2,315	6,794	193,5%
その他	102,689	63,212	-38,4%

図表-9 鶏肉（千トン）



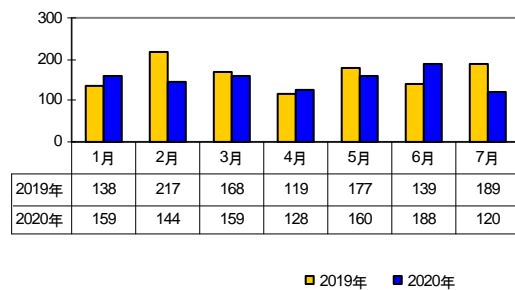
国	1月～7月累計		
	2019年	2020年	2019/20年
合計	2,365	2,365	0,0%
中国（＋香港）	432	499	15,6%
サウジアラビア	284	245	-13,8%
日本	244	238	-2,3%
アラブ首長国連邦	220	173	-21,5%
南アフリカ	169	142	-15,6%
シンガポール	55	80	43,8%
その他	961	987	2,8%

図表-10 コーヒー（トン）



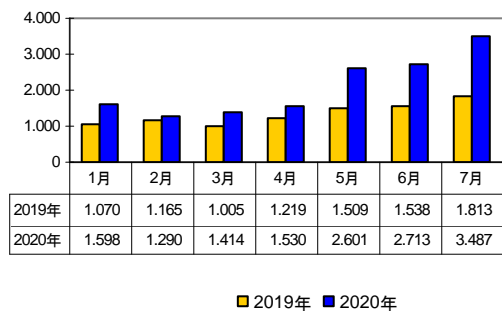
国	1月～6月累計		
	2019年	2020年	2019/20年
合計	1,268,667	1,207,227	-4,8%
ドイツ	225,610	226,355	0,3%
米国	244,427	226,054	-7,5%
イタリア	126,062	111,472	-11,6%
ベルギー	86,315	92,722	7,4%
日本	100,740	58,614	-41,8%
トルコ	41,742	40,768	-2,3%
その他	443,771	451,243	1,7%

図表-11 オレンジジュース（千トン）



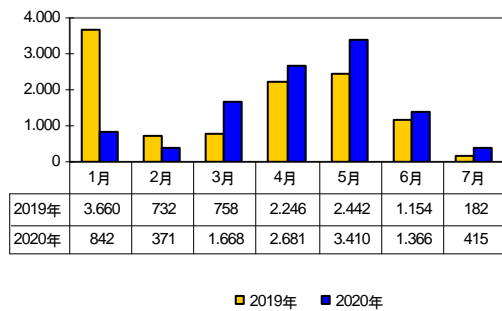
国	1月～7月累計		
	2019年	2020年	2019/20年
合計	1,146	1,059	-7,6%
オランダ	318	353	10,9%
ベルギー	451	303	-32,8%
米国	301	238	-21,0%
オーストリア	0,06	55,52	90224,2%
日本	20,12	24,93	23,9%
中国（＋香港）	21,22	22,96	8,2%
その他	34,61	62,26	79,9%

図表-12 砂糖（千トン）



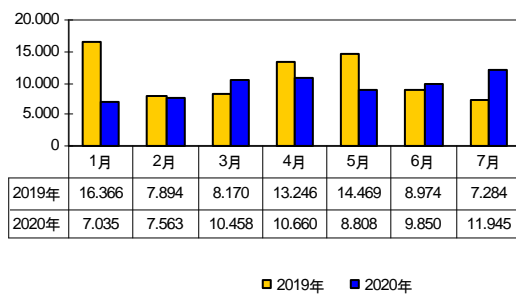
国	1月～7月累計		
	2019年	2020年	2019/20年
合計	9,319	14,633	57,0%
アルジェリア	1,262	1,387	9,9%
中国（＋香港）	958	1,368	42,9%
バングラデシュ	936	1,288	37,7%
インドネシア	0	944	-
ナイジェリア	693	888	28,1%
日本	0,56	0,50	-10,7%
その他	5,470	8,756	60,1%

図表-13 ブドウ (トン)



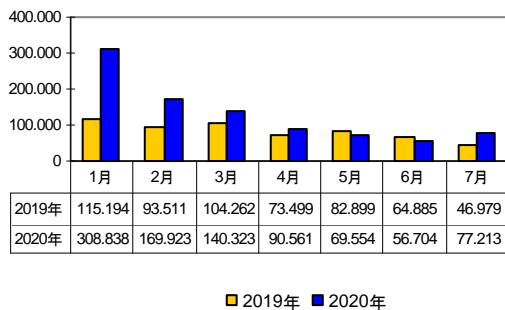
国	1月～7月累計		
	2019年	2020年	2019/2020年
合計	11,174	10,752	-3,8%
英国	3,842	3,571	-7,0%
米国	2,641	3,299	24,9%
オランダ	3,388	2,547	-24,8%
スペイン	346	452	30,4%
アルゼンチン	88	359	307,5%
ドイツ	357	134	-62,4%
その他	512	391	-23,6%

図表-14 マンゴー (トン)



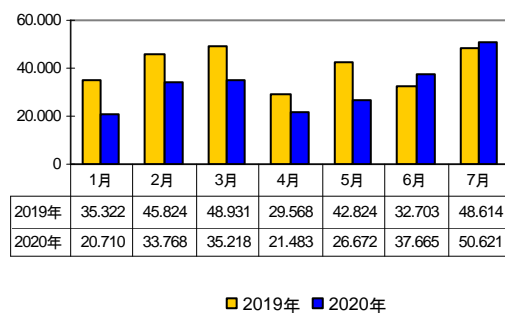
国	1月～7月累計		
	2019年	2020年	2019/2020年
合計	76,404	66,320	-13,2%
オランダ	41,141	30,964	-24,7%
スペイン	16,778	20,686	23,3%
ポルトガル	6,660	4,515	-32,2%
英国	5,830	3,176	-45,5%
ロシア	2,472	2,050	-17,1%
日本	17,22	18,16	5,4%
その他	3,506	4,911	40,0%

図表-15 綿花 (トン)



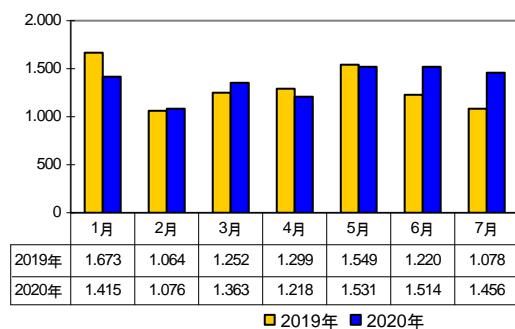
国	1月～7月累計		
	2019年	2020年	2019/2020年
合計	581,228	913,116	57,1%
中国(+香港)	145,868	220,942	51,5%
ベトナム	66,666	148,187	122,3%
トルコ	71,697	125,648	75,2%
パキスタン	10,202	117,283	1049,6%
バングラデッシュ	77,066	112,999	46,6%
日本	3,379	2,330	-31,0%
その他	206,350	185,726	-10,0%

図表-16 タバコ葉 (トン)



国	1月～7月累計		
	2019年	2020年	2019/2020年
合計	283,786	226,137	-20,3%
ベルギー	68,790	61,564	-10,5%
米国	27,853	18,061	-35,2%
インドネシア	11,140	11,740	5,4%
ロシア	15,526	11,408	-26,5%
トルコ	7,847	10,538	34,3%
パラグアイ	10,458	9,098	-13,0%
その他	142,171	103,729	-27,0%

図表-17 パルプ（千トン）

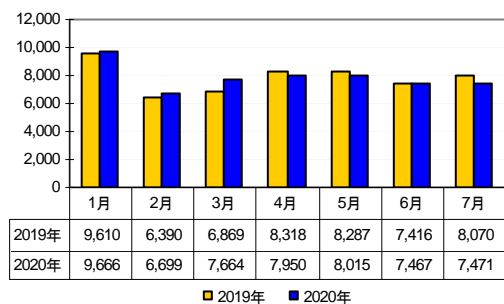


国	1月～7月累計		
	2019年	2020年	2019/20年
合計	9,134	9,573	4.8%
中国（＋香港）	3,944	4,392	11.3%
米国	1,487	1,546	3.9%
イタリア	753	856	13.6%
オランダ	799	553	-30.9%
フランス	205	242	18.3%
日本	238	240	0.8%
その他	1,707	1,745	2.2%

1.3 主要農産物・食品の輸入状況

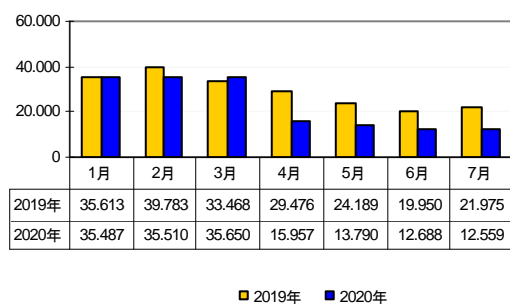
図表 18 から 21 に主要農産物・食品の 2020 年 1 月から 7 月までの累計輸入数量及び対前年同期間比を示す。輸入量は全般的に横ばいから減少傾向で推移している。これらのデータから COVID-19 の直接的影響は読み取れない。

図表-18 食品全般（トン）



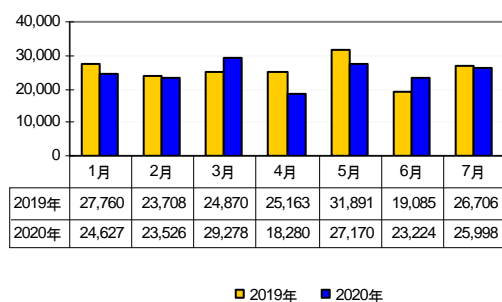
国	1月～7月累計		
	2019年	2020年	2019/20年
合計	54,961	54,932	-0.1%
アルゼンチン	7,464	7,977	6.9%
パラグアイ	4,907	6,486	32.2%
オランダ	5,431	6,364	17.2%
中国（＋香港）	6,871	6,346	-7.6%
ドイツ	5,759	6,249	8.5%
日本	289	231	-20.2%
その他	24,240	21,278	-12.2%

図表-19 水産物（トン）



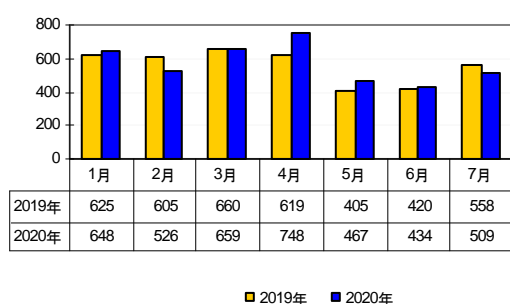
国	1月～7月累計		
	2019年	2020年	2019/20年
合計	204,454	161,641	-20.9%
チリ	55,689	48,352	-13.2%
モロッコ	39,491	27,107	-31.4%
アルゼンチン	19,302	15,767	-18.3%
中国（＋香港）	18,700	13,550	-27.5%
ベトナム	13,677	12,489	-8.7%
日本	28	57	101.4%
その他	57,566	44,319	-23.0%

図表-20 飲料（トン）



国	1月～7月累計		
	2019年	2020年	2019/20年
合計	179,181	172,103	-4.0%
オーストリア	41,254	56,016	35.8%
チリ	27,752	34,202	23.2%
英国	14,457	14,130	-2.3%
ポルトガル	9,034	11,125	23.1%
アルゼンチン	9,101	9,966	9.5%
日本	258	234	-9.4%
その他	77,325	46,429	-40.0%

図表-21 小麦（千トン）



国	1月～7月累計		
	2019年	2020年	2019/20年
合計	3,891	3,992	2.6%
アルゼンチン	3,417	3,540	3.6%
米国	102	240	134.2%
パラグアイ	214	113	-47.3%
ウルグアイ	102	96	-5.2%
フランス	0	4.05	-
レバノン	0.02	0.01	-50.3%
カナダ	56	0	-100.0%

1.4 農産物価格

畜産物（肥育豚、肥育牛、鶏肉）及び主要穀物（大豆、トウモロコシ）、砂糖の価格の推移を図表 22 に記す。

肥育豚及び鶏肉については、3 月から 4 月にかけて、COVID-19 に伴う外出自粛・隔離の影響によりフードサービス（レストラン、バー）でのこれらの食肉の需要が低下したことに起因すると想定される価格低下が観察されたが、5 月以降、フードサービスの営業再開等に伴うと考えられる価格の回復が見られた⁵。

肥育牛については、5 月以降、肉牛の供給不足や輸出が好調であったこと等に起因すると考えられる価格の上昇が見られた⁶。

大豆は輸出が中心となるが、ドル高等により輸出が好調であったこと等に起因すると考えられる価格上昇が見られた⁷。

トウモロコシは、COVID-19 により国内のエタノール燃料の需要が低下したこと、米国でトウモロコシが余るのではないかとという予測があったこと等に起因すると考えられる価格低下が 3 月から 6 月にかけて見られたが⁸、7 月以降、回復傾向で推移している。

砂糖は、3 月から 5 月にかけてエタノールの国内需要の低下に伴う砂糖生産の増加に起因

⁵ Ipea, Carta de Conjuntura, Economia Agrícola, NÚMERO 48 — 3 ° TRIMESTRE DE 2020

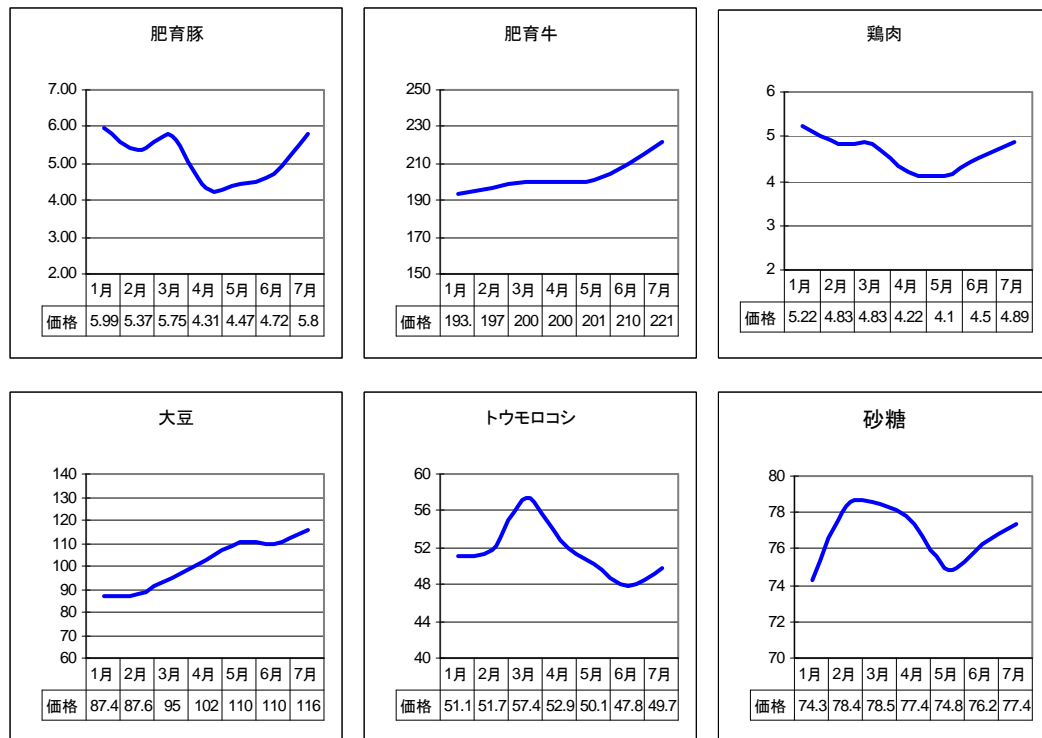
⁶ 同

⁷ 同

⁸ Cepea, Agromensal Milho, 2020/04

すると考えられる価格低下が見られたが、6月以降、タイの不作予想と輸出増加によって回復傾向で推移している⁹。

図表-22 農産物価格の推移（1月～7月）



出典：Cepea

単位：リアル

備考：肥育豚：キロ当たり、Cepea インデックス（サンパウロ）／肥育牛：アローパ（15 キロ）、B3 市場（サンパウロ商品取引市場）／冷凍鶏肉：サンパウロ市場（Cepea インデックス）／大豆：1 俵（60 キロ）あたり、パラナグア港渡し、B3 市場（サンパウロ商品取引市場）／トウモロコシ：1 俵（60 キロ）あたり、B3 市場（サンパウロ商品取引市場）／砂糖：1 俵あたり（50 キロ）、サンパウロ市場（Cepea インデックス）

1.5 食品生産

食品の消費量は IBGE の家計調査で公表されているが、これは数年に一度の調査であり、COVID-19 の影響を見ることができない。そこでジェツリオ・ヴァルガス財団（FGV - Fundação Getulio Vargas）が毎月発表している農産物加工指数（PIMAgro - Índice de Produção Agroindustrial）からメーカーの生産活動を推察する（図表 23）。この指数は 2002 年 1 月を基準として生産活動を指標化しているものである。数値は前年同月比である。

図表 23 によれば、5 月まで食品を除くすべての分野で対前年比でマイナスであったが、6 月は非食品¹⁰以外はすべてプラスに転じており、生産活動の回復が観察された。これまで全体の下げ幅が最も大きかったのは 3 月半ばから始まった自粛・経済活動制限の影響が本格化した 4 月で、飲料は、アルコール、ノンアルコールともに 50%を超えるマイナスとなっ

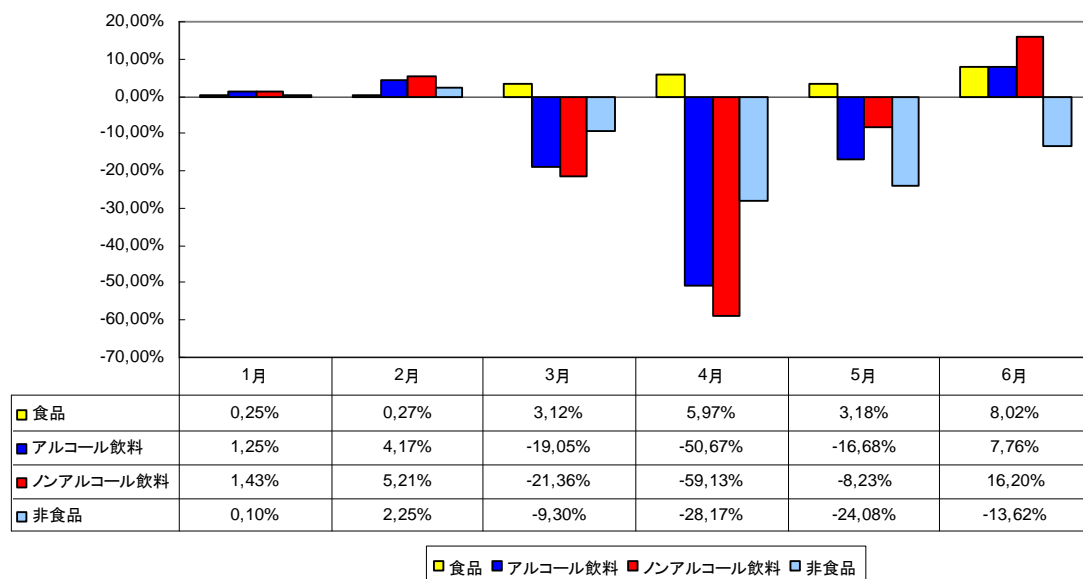
⁹ Cepea, Agromensal Açúcar, 2020/07

¹⁰ 非食品：農業資材、繊維製品、森林製品（パルプ）、バイオエネルギー、天然ゴム、タバコ葉

た。これは、COVID-19 によるフードサービス（レストラン、バー）の閉鎖に起因すると想定される。一方、食品については、スーパーその他の食料品店を含めた流通が維持されたことからマイナスにならなかったと推測される。

6 月は、非食品はまだ大きくマイナスになっているが、フードサービス（レストラン、バー）の営業が、営業時間・席数の制限がありながらも再開されたことから、飲料がアルコール、ノンアルコールともにプラスに転じており、回復傾向に入っている。

図表-23 農産物加工指数



出典：FGV, Índice de Produção Agroindustrial (PIMAgro) – Produção Física, 2020/06

1.6 マクロ経済

1.6.1 農業 GDP

農業 GDP については 2 つのデータがある。一つはサンパウロ州立大学農学部に付属する応用経済学研究センター（Cepea - Centro de Estudos Avançados em Economia Aplicada）が全国農畜産連盟（CNA - Confederação da Agricultura e Pecuária do Brasil）とのタイアップで集計しているもので、もう一つは IBGE のもので国の公式統計である（現時点で第 1 四半期まで発表）。Cepea のものは農畜産関連資材、農畜産生産、農産物加工、流通、サービス部門の 4 分野を含めたもので、IBGE のデータは農畜産生産のみの算出となっている。また成長予測については、経済省付属の研究機関である応用経済研究所（Ipea - Instituto de Pesquisa Econômica Aplicada）が発表しているものがある。

図表 24（Cepea データ）に 1 月から 5 月までの農業関連産業（農業分野、畜産分野）の GDP 成長率を 4 つの部門（資材、生産、加工、サービス・流通）別に示した。同図表によ

れば、いずれの分野も生産部門は大きく成長しているが、加工部門では農業分野でマイナス 3.07%となっており、これは図表 23 で見た農産物加工活動指数のデータと同様に、COVID-19 による自粛・経済活動制限による影響と想定される。一方、畜産分野での加工部門では 9.04%の成長となっており、これは食肉輸出が好調だったことに起因すると想定される。

いずれの分野においてもサービス・流通部門がマイナスになっていないのは、当初、COVID-19 により輸送部門で多少の混乱はあったが、その後すぐに改善され、食品流通は滞りなく続けられた結果に起因すると想定される。また畜産分野でのサービス・流通部門の伸び率が 11.53%だったのは、牛肉を中心に輸出が好調だったためと想定される。

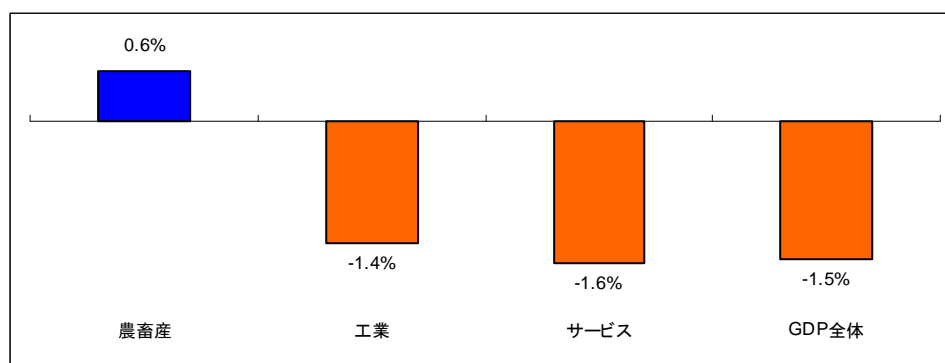
図表-24 農畜産関連産業の GDP 成長率（Cepea、1 月～5 月）

	資材	生産	加工	サービス・流通	合計
農畜産全体	1.00%	11.67%	-0.24%	4.51%	4.62%
農業	0.85%	15.17%	-3.07%	0.69%	2.51%
畜産	1.32%	6.20%	9.04%	11.53%	9.00%

出典：Cepea, PIB do Agronegócio, 2020/08

IBGE の統計によると、第 1 四半期、工業分野、サービス分野がそれぞれ 1.4%、1.6%のマイナスになっている中、農畜産分野は 0.6%の成長を見せた。一方、COVID-19 による自粛・経済活動制限が本格的にしたのは 3 月後半からであり、それ以降の GDP 成長率については IBGE のデータには反映されていない。

図表-25 産業分野別の GDP 成長率（IBGE、1 月～3 月）

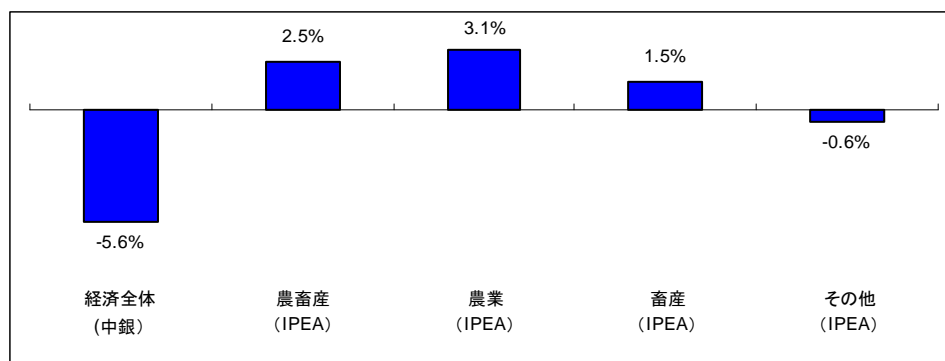


出典：IBGE - Contas Nacionais Trimestrais

次に図表 26 には、Ipea が本年 5 月に発表した 2020 年の GDP 成長率の予測及び中央銀行が金融市場のアナリストの予想を集計して発表する予想（Focus）を掲載した。8 月 7 日現在の中央銀行の予測（Focus）は経済全体マイナス 5.6%、Ipea の予測は農畜産全体で 2.5%であった¹¹。

¹¹ Ipea のシミュレーションは IBGE と CONAB の生産量予想を元に作成されている。

図表-26 2020 年の GDP 成長率予想

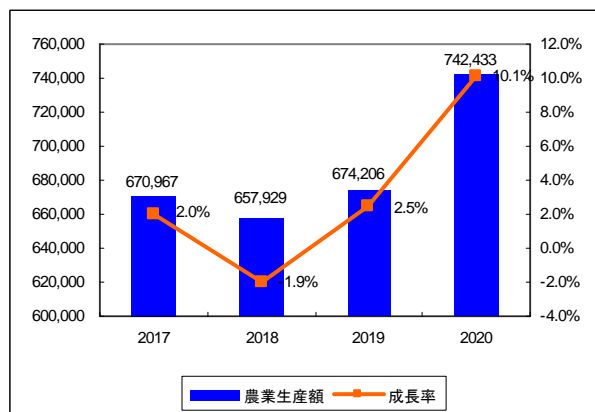


出典：Ipea, Carta de Conjuntura, n° 47 – 2° Trimestre / Banco Central do Brasil

1.6.2 農畜産物生産額（VBP – Valor Bruto de Produção）

VBP は主要作物の生産量と生産者価格をベースに算出されるもので、農牧食糧供給省が毎月年間予想として発表している。2020年のVBP(予想値)は7420億リアルで前年比10.1%の成長が予想されている（農業 12.3%、畜産 6.1%）。穀物を中心とする作物の増産、高水準の価格が維持される見込みが反映された結果と考えられる。VBP は 2018 年から 3 年連続の増額となっている。

図表-27 VBP の推移と成長率



カテゴリー	割合	前年比
農業	66.5%	12.3%
畜産	33.5%	6.1%

出典：MAPA, Valor Bruto da Produção - Lavouras e Pecuária – Brasil, 2020/07

単位：百万リアル

備考 7 月発表の予想。インフレ調整済み（IGP-DI）

1.7 フードサービスへの影響

フードサービス（レストラン、バー）についての公式なデータは存在しないが、全国レストラン協会（ANR - Associação Nacional de Restaurantes）が断片的に発表しているデータで状況を見ることができる¹²。同協会は約 400 社（8200 軒）のフードサービスで組織されている業界団体である。図表 28 は、同協会が 6 月に行った COVID-19 に関連したアンケート結果である。

図表-28 フードサービス経営者アンケート

①新型コロナ後も営業を続けられるか？		⑦新型コロナ前の水準に戻るまでの期間	
はい	85%	2～6 ヶ月	29%
いいえ	15%	1 年	48%
		2 年	19%
		1 ヶ月	2%
		2 ヶ月	2%
②すでに従業員を解雇したか？			
解雇した	72%		
維持している	28%		
③解雇した人数		⑧新型コロナ後どの対策を続けるか？	
大部分の従業員	16%	WhatsApp による受注	72%
一部の従業員	63%	SNS による受注	62%
		自社のアプリによる受注	44%
		QR コードのメニュー	38%
		オンライン決済	34%
		サイトによる販売	21%
		オンライン予約	16%
④売上は新型コロナでどうなったか？		⑨顧客の信頼を増すために行う投資 (必ず行うと答えた割合)	
10%以上増えた	4%	従業員の安全用具	82%
10%以下増えた	2%	安全プロトコルに合わせた従業員教育	73%
同じ水準	4%	衛生プロトコルについて顧客に説明する	69%
25%減った	7%	顧客のための使い捨ての衛生用品	63%
26～50%減った	11%	ブランドコミュニケーション	41%
51～75%減った	19%	新型コロナテスト	29%
76～90%減った	19%	調理風景のイメージの公開	24%
91～100 減った	34%	食材のオリジンの公開	23%
⑤従来の売上の何%をテイクアウト、デリバリーでカバーできたか？			
10%まで	25%		
11～20%	23%		
21～30%	19%		
31～40%	9%		
41～50%	11%		
51%以上	13%		
⑥再開後の売上の見込み			
外食の頻度が少なくなるので落ちる	49%		
席数が少なくなっているので落ちる	42%		
自分のとっている対策に自信があるので増える	5%		
以前と同じ	4%		

¹² ANR e Galunion apresentam detalhes da última pesquisa sobre impactos da Covid-19 no setor

< <https://anrbrasil.org.br/anr-e-galunion-apresentam-detalhes-da-ultima-pesquisa-sobre-impactos-da-covid-19-no-setor/> >

全国調査、800 軒のレストランが対象。

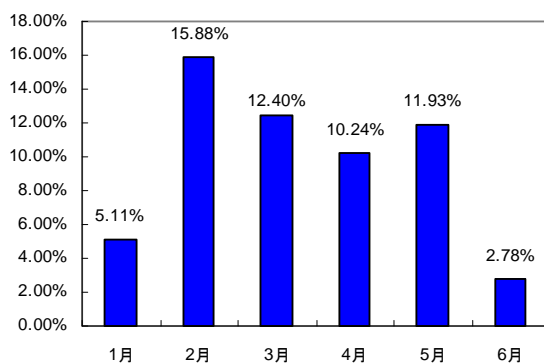
図表 28 によれば、アンケートに回答した事業者の 15%が営業を続けられないと答え（問①）、72%が従業員の解雇を行ったと回答した（問②）。なお、ブラジルの雇用統計にはフードサービス（レストラン、バー）のカテゴリーでのデータは発表されない。

地方自治体¹³によっては、飲食店はテイクアウトとデリバリーだけの営業に制限されたが、問⑤を見ると、約 9 割の店舗が COVID-19 感染拡大以前の売上の 50%以下しかカバーできていないことがわかる。また、問⑥の営業再開後の売上の見込みでは、半数近くが外食の頻度が減ると見込んでいる。

1.8 小売への影響

図表 29 は、ブラジルスーパーマーケット協会（ABRAS - Associação Brasileira de Supermercados）が定期的に発表しているスーパーマーケットの各月の売上の前年比を示している。食品店、スーパーマーケットは COVID-19 による外出制限後もライフラインとして営業が続いたため、売上に影響は見られず、むしろ外出制限やフードサービス（レストラン、バー）の閉鎖等に起因して食品類の売上が増大したものと推定される。

図表-29 スーパーの売上の前年同月比



出典：Abras, Índice do mês

1.9 消費者への影響

図表 30 は、消費者のスーパーでの行動様式について調査会社である Opinion Box 社が発表しているデータ¹⁴の概要である。COVID-19 禍で食品のネット販売は増えたとされてい

¹³ COVID-19 に対する措置、法令は連邦政府、州政府、市のそれぞれの段階で発布されるが、店の閉鎖、再開は州と市の権限となっている。自粛・隔離に積極的でなかった連邦政府が大統領令による経済再開の意向を示した時、最高裁（STF）が違憲であることを確認している。

¹⁴ Opinion Box, Impacto nos Hábitos de Compra e Consumo - 5ª Edição
2020 年 4 月 22～24 日調べ、インターネット調査

るが、一方で実際に店に行って買い物をするという習慣は続いていることが伺われる（問①）。しかし、半分近くの人がスーパーに行く頻度が少なくなった、また3分の1の人が滞在する時間を少なくしたと答えていることから（問②）、出来るだけスーパーでの買い物を避けようとしていることがわかる。店選択の基準では、価格が根強いが、新 COVID-19 対策や衛生を基準にしているということが上位にきており（問③）、COVID-19 の消費者に対する影響の大きさがあらわれている。

図表-30 スーパーについての消費者の行動様式

① 過去 30 日の間にスーパーに行ったか		③ COVID-19 下で買う場所(店)を決めるときの基準	
はい	88%	値段	63%
いいえ	12%	COVID-19 対策をしているかどうか	54%
		衛生	52%
		知っている、通っているところ	52%
		プロモーション	50%
		店内が空いているところ	48%
		所在地	47%
		製品の種類	42%
		近所の小さいスーパー	35%
② スーパーでの買い物で何が変わったか			
買い物の頻度が下がった	44%		
店に滞在する時間が短くなった	34%		
1 回の購買量が多くなった	26%		
買い物をする時間帯を変えた	21%		
買う場所(店)を変えた	18%		
週の中で買い物をする曜日を変えた	17%		

出典：Opinion Box, Impacto nos Hábitos de Compra e Consumo - 5ª Edição

1.10 インターネット販売への影響

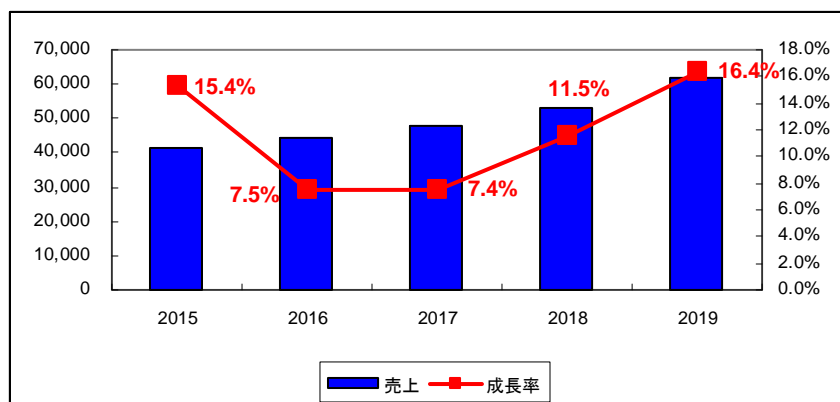
ネット販売の公式データは存在しないため、大手調査会社の Nielsen グループの ebit 社、そして販売業者格付け会社大手の Movimento Compre & Confie 社が公開しているデータを使用する。

図表 31 は、過去 4 年の売上の伸びを ebit 社のデータ¹⁵で見たものであり、2015 年、2016 年に 3.55%、3.28%¹⁶のマイナス成長で歴史的な不況に陥り、その後も 1.1%～1.3%の成長しかしておらず、経済は COVID-19 の前の時点でもまだ回復していなかったにもかかわらず、ネット販売は近年成長を続け、2019 年は 16.4%の成長率を記録した。市場規模のデータは両社によって差があるが、2019 年の総売上は ebit 社では 619 億リアル、Movimento Compre & Confie 社では 751 億リアルという数字が発表されている。

¹⁵ ebit, Webshoppers - 41ª Edição - 2020

¹⁶ IBGE

図表-31 ブラジルのネット販売の売上推移



出典：ebit, Webshoppers - 41ª Edição - 2020

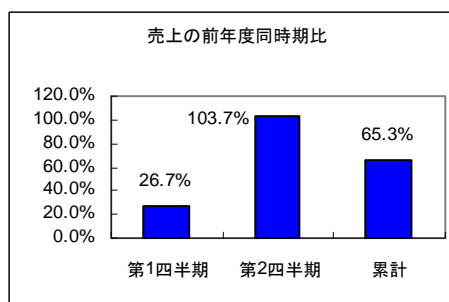
単位：百万リアル

今年の動向を Movimento Compre & Confie 社のデータ¹⁷を見ると、上半期の売上は図表 32 のようになり、まだ COVID-19 の影響が本格化していない第 1 四半期の時点でも、前年同時期比で 26.7% 売上が増えており、自粛・経済活動制限が始まった第 2 四半期では 103.7% の増加となっている。累計では今年の上半期だけで 65.3% という急拡大となっている。

現在ではレストランのデリバリーも電話ではなくネットから注文するようになっており、先のレストランオーナー対象の調査でも COVID-19 後も SNS、アプリを用いた販売を続けるという回答が多かったことから（図表-28⑧）、ネット販売は今後も拡大を続けるものと予測される（図表-31 及び図表-32）。

図表-32 2020 年上半期のネット販売の売上及び前年同期比

	期間	2019年	2020年
注文数	第1四半期	37,600	49,800
	第2四半期	39,000	82,800
	累計	76,600	132,600
売上(百万リアル)	第1四半期	16,100	20,400
	第2四半期	16,200	33,000
	累計	32,300	53,400



出典：Movimento Compre & Confie, NEOTRUST 各号

図表 33 は売上の内訳を Movimento Compre & Confie 社のデータで見たものである。これによると、比較的高額なものが多い携帯電話や電化製品、パソコンの割合が大きく、これは COVID-19 前からの傾向である。注目されるのは、家庭用品と食品・飲料が売上額の割合はまだ小さいものの（それぞれ 5.1% と 1.5%）、COVID-19 が始まった第二四半期でそれぞれ約 140%、110% も拡大していることである。これまで消費者が店舗で買っていたも

¹⁷ Movimento Compre & Confie, NEOTRUST 3ª EDIÇÃO E 4ª EDIÇÃO

のをネット販売に切り替えたことがわかる。また、スーパー自体が、COVID-19 でネット販売に力を入れ始めたり、レストラン向けの仲買人への販売機会を失った小規模な野菜生産者が直接消費者に販売・配達するケースが増えたが、これもネットを通じて行われているので、今後もますます増えていくと想定される。

図表-33 ネット販売のカテゴリーごとの売上

	第 1 四半期		第 2 四半期		増減	累計	割合
	売上割合	売上額	売上割合	売上額			
電話	18.9%	3,856	17.6%	5,808	50.6%	9,664	18.1%
エンターテインメント	12.1%	2,468	14.4%	4,752	92.5%	7,220	13.5%
電化製品	16.8%	3,427	11.9%	3,927	14.6%	7,354	13.8%
パソコン、カメラ類	9.7%	1,979	11.0%	3,630	83.4%	5,609	10.5%
モード、アクセサリ	9.1%	1,856	10.3%	3,399	83.1%	5,255	9.8%
家具、リフォーム資材	7.9%	1,612	9.2%	3,036	88.4%	4,648	8.7%
美容、健康用品	8.5%	1,734	6.9%	2,277	31.3%	4,011	7.5%
家庭用品	3.9%	796	5.8%	1,914	140.6%	2,710	5.1%
サプリメント、スポーツ・レジャー用品	4.8%	979	4.0%	1,320	34.8%	2,299	4.3%
その他	2.4%	490	2.6%	858	75.2%	1,348	2.5%
玩具	1.2%	245	1.9%	627	156.1%	872	1.6%
車	2.3%	469	1.9%	627	33.6%	1,096	2.1%
食品・飲料	1.3%	265	1.7%	561	111.5%	826	1.5%
ペット用品	1.1%	224	0.8%	264	17.6%	488	0.9%
合計		20,400		33,000	61.8%	53,400	

出典：Movimento Compre & Confie, NEOTRUST 各号

単位：百万リアル

2 COVID-19 により顕在化したバリューチェーンの課題

2.1 トラック輸送の混乱

3 月にレストランの営業停止措置がとられた時点で、高速道路沿いのレストランも閉まり、トラック運転手が食事に困るという事態が一時的に発生した。しかし、当初から農牧食料供給省は食料の安定供給を最優先課題として取り組んでおり、3 月 26 日付の省令で、街道沿いのガソリンスタンドに併設するレストラン、コンビニなどを食料、飲料供給のための必需活動として定めたため、事態はほどなく改善された。また穀物輸送の幹線道路である BR-163 線の連邦道理警察や高速道路運営会社を通じて運転手に食事や衛生用品を寄付するという活動も行われた。

国内最大の農業州であるマットグロッソ州と、パラ州の重要な河川輸出港である Miritituba 港を結ぶ穀物輸送幹線道路である国道 163 号線を、先住民のカヤポ族が政府の COVID-19 対策の不備に抗議し、8 月 17 日から 5 日間に亘り封鎖。その間、多数のトラック（大豆の収穫期を終えていたため積荷は主にトウモロコシ）が立ち往生し穀物物流に影響を与えた。

2.2 コーヒーの収穫

コーヒーの収穫は季節労働者を使うので、州間の移動が制限された 3 月の段階で、労働力確保の面で、4 月から始まるコーヒー収穫への影響が心配された。しかし、ロブスターコーヒーの主要生産州であるエスピリットサント州では、収穫の最初の段階で労働者の確保に困難があったとされていたが、これまでのところ目立った問題等は報告されていない。またアラビカ種の主要生産地であるミナスジェライス州南部でも、ブラジル最大のコーヒー輸出者である Cooxupé 組合によると¹⁸、若干の遅れはあるが、現時点で収穫は 2018 年と同じペースとされている。なお、同組合の収穫は 8 月 7 日段階で 77.88%まで進んでいる。

一方、生産者にとってネックとなるのは、COVID-19 対策によるコスト上昇である。60 歳以上または持病をもつ従業員は自宅待機をしなければならないので、その分の経費補填が必要であり、さらに安全用具の支給、従業員間の距離の確保、通勤用のバスの消毒、食事中の距離が保てるように食堂を改善するなど、さまざまな追加経費が重なってきている。

COVID-19 対策としては、ミナスジェライス州では、農業技術普及公社（Emater-MG - Empresa de Assistência Técnica e Extensão Rural do Estado de Minas Gerais）が「安全

¹⁸ Terra, Colheita de café da Cooxupé atinge 78% da área e alcança níveis de 2018, 2020/08/20
<https://www.terra.com.br/economia/colheita-de-cafe-da-cooxupe-atinge-78-da-area-e-alcanca-niveis-de-2018,0983ae0881729980e0579e3a068c8decy32e519f.html>

ガイド」を策定し、病気の説明から農場での対策まで、詳細な対策を記しているが、こうしたガイドラインの策定は様々な分野で行われている。

2.3 花卉・観葉植物生産への影響

3 月半ばに COVID-19 対策の措置が発表され、その中でイベントの禁止と花卉店の営業停止が含まれていたため、花卉・観葉植物の生産者、流通関係者は突然の販売減少に見舞われた。ブラジルの花卉・観葉植物業界を代表する団体の一つであるブラジル花卉協会 (Ibraflor - Instituto Brasileiro de Floricultura) によると、最初の 1 週間は売上の 90% が急減したという¹⁹。特にイベント業者への販売が大部分を占めていた切り花の生産者は、禁止により、その需要のすべてを失い、大きな影響を受けた。花卉・観葉植物は農産物として扱われ、農牧食料供給省の省令で販売活動は認められているが、店の営業などについては、地方自治体の判断が優先され、他のカテゴリーの店舗と同様に停止措置がとられたため、食品を扱うことから営業が許可されたスーパーでの販売のみになった。さらにサンパウロ卸売市場 (CEAGESP - Companhia de Entrepósitos e Armazéns Gerais de São Paulo) の花卉・観葉植物部門も閉鎖された (4 月 28 日に再開)。

花卉・観葉植物のセリ市場として最大の Holambra Velling では、3 月の後半、扱いが 70% 下がっている²⁰。このままイベントの禁止、花卉店の営業停止が続けば 66% の生産者が廃業、12 万人分の雇用が減少するという悲観的な見通しまで発表された。

1 年のうちで最大の販売機会である 5 月の「母の日」を前にして業界は、Ibraflor の名前で全国の市長で組織される全国市長連合 (FNP - Frente Nacional dos Prefeitos) に請願するなどロビー活動を行い、サンパウロ州では 4 月 29 日に花卉店の再開が認められた。これによって「母の日」の販売が、前年並みとはいかなくてもある程度回復して最悪の事態は免れた。しかし、Ibrafor によると、それでも前年比で 30~40% の販売量、値段は最高 70% まで下がったという²¹。

Ibraflor によると、上半期は全体で 30% の売上減、切り花の場合はマイナス 50% という結果だった。当初 3 分の 1 が廃業すると見られたが、7 月の時点で 10% ほどにとどまっており、生産を離れるのは最高 20% ではないかと Ibraflor は予想している。切り花の生産者の多くは生産量を減らすか止めたところもあり、その場合は野菜生産に切り替えたりしている。

鉢物は消費者が家で過ごす時間が長くなれば需要も増えることが予想されており、またイベント禁止の影響は切り花ほど大きくない。しかし、栽培サイクルが長いことから、他

¹⁹ Agro Link, Setor de flores é o mais afetado do agro, 2020/07/07

< https://www.agrolink.com.br/noticias/setor-de-flores-e-o-mais-afetado-do-agro_436505.html >

²⁰ SNA, Mercado de flores registra grandes perdas, 2020/03/30

< <https://www.sna.agr.br/mercado-de-flores-registra-grandes-perdas/> >

²¹ Globo Rural, Pandemia de Covid-19 causa perdas milionárias e colapso no setor de flores do Brasil, 2020/0705

< <https://revistagloborural.globo.com/Noticias/noticia/2020/07/pandemia-de-covid-19-causa-perdas-milionarias-e-colapso-no-setor-de-flores-do-brasil.html> >

の作物への切り替えは難しく、苦しい状況であることは間違いない。

一方、業界で販売を伸ばしたのは以前から進んでいたネット販売である。最大手の Giuliana Flores は 5 月の昨年比で 200% も売上を伸ばし、母の日の週には 9 万 5000 の注文があったという。

2.4 野菜生産への影響

野菜分野も、COVID-19 で大きなインパクトを受けた。自粛・経済活動制限によりフードサービス店が閉鎖され、デリバリーとテイクアウトでのみの提供になったことにより需要が大きく失われた。とくに葉もの野菜は足が早いいためテイクアウトやデリバリーに使いにくく購買量が減った²²。また学校が閉鎖されたため、学校給食の需要もなくなった（学校給食への販売は、小規模農家にとって重要な収入源になっている）。さらにサンパウロ市以外の各地では、人の集中を避けるために街路を利用して開かれる露店市（Feira da Rua）が禁止され販売機会が失われた。露天市は野菜の売り場が多数出る重要な販売ポイントである。

政府は影響を和らげるために、自宅待機している子どもたちに届けるという名目で、公立学校の給食のための生産物を買上げるプログラムである、全国給食プログラム（PNAE - Programa Nacional de Alimentação Escolar）の継続を発表し 10 億レアルの予算をつけた。さらに家族経営農家の生産物を買上げて福祉団体などを通じて低所得者に配布する、食料購買プログラム（PAA - Programa de Aquisição de Alimentos）に 5 億レアルの予算をつけている。

野菜、果物の分野は生産者の規模によって影響に差が出ている。大規模生産者は大手小売グループ（スーパー）との契約を結んでおり、卸売市場を通さずに直接、各社の供給センターに出荷するため、生産物の販売への影響は軽微だった。特に自粛期間が始まった当初は買い溜め需要で販売量が増えた。

一方、小規模の生産者は仲買人・卸業者や露天市業者への販売が中心である。仲買人・卸業者は小規模なスーパー、露天市業者、八百屋などに卸すが、レストランも重要な顧客となっていることから、レストランへの販売が急減し（あるいはなくなった）、販売先が失われたため生産物の破棄も行われた。収穫を前に畑で鋤き込む光景がニュースで流れるなど、状況の深刻さが伝えられた²³。

図表 34 は 1 月 7 月までのサンパウロ中央卸売場（Ceagesp - Companhia de Entrepósitos e Armazéns Gerais de São Paulo）の販売量である。同市場はブラジル最大の生鮮食品の卸売市場で水産物、花卉・観葉植物も扱われる。ただ野菜類については、仲買人や露天市業者が生産者を回って仕入れる「庭先販売」も多いため、すべての生産物がここを通じて取

²² Embrapa, A epidemia do coronavírus e as cadeias produtivas de hortaliças, 2020/03/31

<https://www.embrapa.br/en/busca-de-noticias/-/noticia/51140463/artigo-a-epidemia-do-coronavirus-e-as-cadeias-produtivas-de-hortaliças>

²³ Globo Rural, Hortaliças sofrem com impacto do coronavírus em SP, 2020/05/10

<https://g1.globo.com/economia/agronegocios/globo-rural/noticia/2020/05/10/hortaliças-sofrem-com-impacto-do-coronavirus-em-sp.ghtml>

引されるわけではない。また上述したように、大手小売グループは直接大規模生産者や組合と取引している。

最も影響が大きかったのは4月、5月である。葉野菜が中心のヴェルドゥーラ（表の備考参照）は、4月前月比で20%以上も販売量を減らしている。1月～3月、4月～6月期を比べると、やはりヴェルドゥーラがマイナス15.5%で最も減少率が高い。ただ葉野菜は冬季に消費量が下がるため生産が少なくなる傾向があることを考慮する必要がある。

図表-34 サンパウロ中央卸売場（Ceagesp）の販売量の推移（単位：千トン）

月	果物		レグーメ*		ヴェルドゥーラ*	
	販売量	前月比	販売量	前月比	販売量	前月比
1月	143,66		69,51		19,06	
2月	124,52	-13,3%	59,96	-13,7%	18,44	-3,3%
3月	142,36	14,3%	66,53	11,0%	18,98	2,9%
4月	127,94	-10,1%	62,36	-6,3%	14,78	-22,1%
5月	116,11	-9,2%	59,84	-4,0%	15,27	3,3%
6月	128,13	10,4%	67,31	12,5%	17,48	14,4%
7月	128,61	0,4%	67,43	0,2%	18,25	4,4%

	果物	レグーメ	ヴェルドゥーラ
1月～3月	410,54	196,00	56,47
4月～6月	372,18	189,52	47,53
増減	-9,3%	-3,3%	-15,8%

出典：Ceagesp (Companhia de Entrepostos e Armazéns Gerais de São Paulo)

備考：レグーメ、ヴェルドゥーラはブラジル独特の分類で、ヴェルドゥーラは、葉野菜中心でレタス、キャベツ、西洋セリ、カブ、大根、パセリ、ルッコラ、ほうれん草など。レグーメはイモ類、豆類、玉ねぎ、エンドウ、キュウリ、ニンジンなど。データが定期的に発表されていないので、前年と比較できない。

2.5 食肉パッカー（処理工場）の操業停止

COVID-19 の従業員への感染、予防のため操業を停止する食肉処理工場が多く出た。労働集約型の産業である処理工場では通常従業員は過密な状態で働き、また衛生の確保のため完全空調で、さらに低温に保たれているため COVID-19 の感染がおこりやすい環境となっている。

次の表は SIF（Serviço de Inspeção Federal、連邦検査部）が発表している、それぞれの時点で停止していた処理工場のカテゴリーごとの数である。一番多かったのは5月、6月で現在では落ち着いている。

図表-35 カテゴリーごとの操業停止パッカーの数

発表日	牛	鶏	豚	ヤギ	ヒツジ	ヤギ + ヒツジ	牛+ヤギ + 豚	牛+ヤギ + 馬+ヒツジ	鶏+豚	魚	その他	合計
5月8日	31	5	1							2	2	41
6月12日	26	9	7	1	1	1	1	1				47
7月13日	2	5	1						1			9
8月12日	1		1									2
合計	60	19	10	1	1	1	1	1	1	2	2	99

出典：MAPA, Relatório de Atividades do Serviço de Inspeção Federal 各号

停止措置は工場側の自主的な停止もあるが、多くは労働検察庁（Ministério Público do Trabalho）が従業員の訴えを取り上げるか、独自に COVID-19 への対応を査察して、操業停止を地方裁判所に告訴、その判決によって操業停止の命令が出される流れになっている。労働検察庁は裁判手続きでの解決を避けるために、予め COVID-19 対策について各企業と協議し、任意で運営調整協定（TAC - Termo de Ajustamento de Conduta）に署名してきているが、それでも対策の不備や解釈の違いなどが出て混乱を招き、裁判で争われている。

COVID-19 対策は処理工場側にとって経済的な負担が大きい。全国で 13 万人を雇用する最大手の JBS 社では、安全用具の支給、医療専門家の採用、混雑防止のための通勤用バスの増便、食堂の改善などの費用がかかり、さらに第 2 四半期には、リスクグループに入る従業員を出勤させないために約 1 万人を新たに雇用した。それらの費用を合わせると 1 億レアルに上っているとの報道がなされている²⁴。また従業員間の距離を通常より長くするため、工場に入る人数が減り、処理能力も下がっている。

2.6 中国による食肉パッカーの輸出認可の一時停止

中国はブラジルにとって食肉の最大の輸出先であり、特に COVID-19 の感染がおこった今年は、在庫確保のために大きく輸入量を増やしている。1 月～7 月の期間、ブラジルが輸出する牛肉の 60%、豚肉の 70%、鶏肉の 20%が中国向けである。しかし、中国政府は 6 月に北京で冷凍サーモンから COVID-19 が発見されたことと（のちに因果関係は否定）、ブラジル国内の食肉処理工場の従業員の感染が多いことから、特定のパッカーの輸出認可の一時停止を行い、さらに従業員全員の検査、使用する食肉の PCR 検査を求めるなど、ブラジル政府、各メーカーに対し高いレベルでの衛生管理を求めている。

ブラジルの食肉処理工場での COVID-19 感染の広まりを受け、最大の輸入国である中国は、6 月半ばから感染の状況などの情報をブラジル政府に求めて懸念を表し始めた。6 月 21 日には、マツグロソ州の牛肉パッカーが自主的に中国向けを停止している。中国政府は各パッカーに対して、汚染されていないという保証の書類を提出するように求めた。各パッカーはこれに応じたが、同月 29 日以降、中国は 7 つのパッカーの輸出認可を停止さ

²⁴ Valor Econômico, JBS investiu R\$ 100 milhões contra covid-19, 2020/07/30

< <https://valor.globo.com/agronegocios/noticia/2020/07/30/jbs-investiu-r-100-milhoes-contra-covid-19.ghtml> >

せた。英国、米国、ドイツ、アルゼンチンに対しても同様の処置がとられている。

ブラジル政府はパッカーの従業員の感染増加を受けて、6月、経済省、農牧食糧供給省、保健省によって食肉処理工場での対策についての手順書を出しているが、中国政府は7月に食肉輸出国側の対策について独自のガイドラインを発表、それに従うことを求めた。ガイドラインでは、工場内の衛生管理に加え、感染されていない地域からの家畜の受け入れと処理前の検査と認証の発行、全従業員の COVID-19 検査などを求めている。これに対して、農牧食糧供給省は「合理的ではない」というコメントを出し、7月の終わりにはブラジルの手順書は信頼できるもので、中国が求める検査は行わないと表明した。

8月13日には深圳でブラジルから輸入された冷凍手羽肉で COVID-19 が発見されたと報道された。そして、同月19日には香港がその手羽肉を輸出した処理工場からの輸入の禁止を発表している。さらにフィリピンが14日にブラジルからの鶏肉の輸入を全面禁止すると発表しているが、ブラジル政府はこれに対し、COVID-19 の予防ではなく保護主義だとして、WTO に提訴する構えもみせたが、フィリピンはその後禁止措置を取りやめた。

ブラジル国内では、大豆も含め農産物輸出は中国に偏っていることから、リスクが高いという危機感も広がっている。また米国と中国の貿易戦争の影響を受けるので、農業界にとっての中国との関係はデリケートなものとなっている。しかし、中国はブラジルの100以上の食肉処理工場を認可しているので、一部の認可停止は、全体への大きな影響を与えないと見られている。

3 政策、政府、民間企業の動き

3.1 入国制限

ブラジル人及び移住者、長期滞在社など居住権をもつ外国人以外の入国は禁止されていたが、7月31日一部緩和された。短期滞在の場合でも「ブラジル旅行中の全期間をカバーするブラジル国内で有効な医療保険の加入証明書」の提示で入国が認められるようになった²⁵。一度、「感染していないことを証明する現地衛生当局又は医師が発行した診断書」の提出が義務付けられたが後にキャンセルされた。

3.2 連邦政府による支援策

COVID-19 感染に係る政府の支援策の主なものは次のようになっている。なお各企業の感染回避策は、これらの支援策の条件とされていない。

3.2.1 農業分野

農業融資返済の繰延

昨年契約したコスト、投資向けの農業融資の中で、返済期限が来るものの再交渉を許可。8月15日以降の返済に変更。約700億レアルが再交渉される見込み。

政府による家族農業の生産物の買い上げ

「家族農業」として登録されている農家の生産物を食料購買プログラム(PAA - Programa de Aquisição de Alimentos)の一貫として買い上げて、福祉団体、貧困家庭などに配布するものである。予算総額は5億レアル。買い上げる作物は野菜類、牛乳、花など。恩恵を受けるのは8万5000農家で、配布先は1万2500団体、1万1000家庭が想定されており、予算は牛乳が1億3000万レアル、その他が3億7000万レアルとなっている。

中小生産者への新規融資

COVID-19 で困難に陥っている中小規模の生産者に対する緊急融資。小規模生産者に対しては最高2万レアル(年利4.6%)、中規模生産者に対しては4万レアル(同6%)。いずれも3年で返済。

²⁵ 在ブラジル日本国大使館、外国人に対する入国制限措置の更なる延長】ブラジルにおける COVID-19 に関する注意喚起、2020/07/31
https://www.br.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00173.html

組合、加工メーカー、穀物扱い業者への融資

在庫、販売費用に対する融資。1 件あたり最高額 6500 万リアル。家族農業が主体の組合の場合は年利 6%、それ以外は 8%。返済期間は 240 日以内。

干ばつ補償金の前払い

昨年の東北部での干ばつ被害の補償金（Garantia-Safra）を 4 月 15 日に前払いで払い込んだ。対象となった生産者は東北部の 12 万家族。4 月の分だけで 7330 万リアル。

休校中の学校給食の継続（PNAE - Programa Nacional de Alimentação Escolar）

公立学校では生徒に給食が支給されており、それに家族農家の生産物が政府によって買い上げられて使われている。当初、休校に伴い給食の支給も止まったが、4 月 8 日から生徒の家に配るという方法で継続が発表された。約 10 億リアルの資金が回ると推計されている。

エタノールの在庫資金の融資

自粛・経済活動制限によって車の使用が減り、それにとまってエタノール燃料の消費が減ったため、エタノール製造メーカーの経営難が危惧されている。それに対して政府は国立経済社会開発銀行（BNDES - Banco Nacional de Desenvolvimento Econômico e Social）を通じて、雇用を維持することを条件に特別の融資を設定した。1 社あたり 1000 万～2 億リアルで、3000 万リアル以上のメーカーが対象、支払猶予 12 ヶ月、返済は最高 24 回分割で、エタノールを担保とするという条件。

3.3 全般

雇用保証融資

中小企業が雇用を維持するための融資で、直接、従業員の口座に払い込まれる。融資を受けると従業員の不正など以外の理由で解雇ができない。売上が 36 万～1000 万リアルの企業が対象。年利 3.75%、支払猶予 6 ヶ月、最高 36 ヶ月払。予算 1540 億リアル。

従業員の雇用契約の一時的変更

企業による大量の解雇を防ぐため、従来の労働法を一時的に変更して、労働時間の短縮と給与の削減、労働契約の一時停止などの交渉が認められた。暫定措置法（Medida Provisória）、MP 936/2020 として公布された。

零細企業向け融資（Programa Nacional de Apoio às Microempresas e Empresas de Pequeno Porte）

零細企業向けの回転資金、投資のための融資である。2019 年の売上の 30%まで融資される。設立が 1 年以内の企業の場合は、月平均の売上の 30%か資本金の 50%。

3.4 民間企業の動き

3.4.1 食品メーカーなどによるフードサービス支援策

フードサービス（レストラン、バー）業界は今回の COVID-19 でもっとも打撃を受けている分野である。各食品メーカー、農業関係企業にとって、フードサービス（レストラン、バー）は重要な顧客であるところから、各社、共同、あるいはそれぞれ独自で救済策を実施している。以下、事例を上げる。

大手飲料・食品メーカーの合同キャンペーン

Ambev、Aurora Alimentos、BRF、Heineken、Mondelez International、Nestlé、Pepsico が参加。営業再開にあたって衛生用品、従業員のトレーニングを支援。製品の仕入れのための特別な支払い条件の提供などを競合の枠を越えて実施。費用は 3 億 7000 万リアルで、対象は 30 万の小規模飲食店。

Marfrig

大手食肉メーカーの Marfrig では、#TMJMarfrig というプログラムを設けて顧客の支払い期限の延長、クレジット枠の拡張などの支援を行っている。対象は小規模なレストラン、パール、パン屋、シュラスケリア（バーベキュー店）で、投資額は同社のサイトによると 5000 万リアル。

Diageo

グローバル飲料グループの Diageo ではレストラン、バーの再開にあたって衛生キットの支給、メニューのデジタル化などの支援を行っている。予算は 1500 万リアル。

ブンゲ

穀物メジャーのブンゲでは食品メーカーと共同で、営業停止中のレストランの売上維持のため、再開後に使うクーポンを販売するプラットフォームを立ち上げた。クーポンが売れるごとに、同社は 1 食を慈善団体に寄付するという仕組みである。